

# 事業報告書

令和3年度

(第8期事業年度)

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

地方独立行政法人市立吹田市民病院

## 目次

1	地方独立行政法人市立吹田市民病院の概要	
(1)	現況	1
(2)	基本的な目標等	1
2	全体的な状況	
(1)	総括	2
(2)	大項目ごとの特記事項	2
第1	年度計画の期間	
第2	市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取組	
第3	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組	
第4	財務内容の改善に関する目標を達成するための取組	
第5	その他業務運営に関する重要事項を達成するための取組	
3	項目別の状況	
第1	年度計画の期間	5
第2	市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	
1	大阪府地域医療構想を踏まえて果たすべき役割	5
2	市立病院として担うべき医療	5
(1)	総論	
(2)	救急医療	
(3)	小児医療、周産期医療	
(4)	災害医療	
(5)	がん医療	
(6)	リハビリテーション医療	
3	安心安全で患者満足度の高い医療の提供	13
(1)	安心安全な医療の提供	
(2)	チーム医療の充実	
(3)	コンプライアンスの徹底	
(4)	患者サービスの向上	
4	本市の地域包括ケアシステムの構築に貢献する地域完結型医療の体制づくり	17
(1)	地域の医療機関（かかりつけ医等）との機能分担・連携	
(2)	在宅医療の充実に向けた支援	
5	健都における総合病院としての役割	20
(1)	国立循環器病研究センターとの機能分担・連携	

(2) 他の健都内事業者等との連携	
(3) 予防医療に関する取組	
6 地域医療への貢献	22
(1) 地域の医療従事者への支援	
(2) 福祉保健施策への協力・連携	
第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項	
1 PDCAサイクルによる目標管理の徹底	24
2 働きやすい職場環境の整備	25
(1) 医療職の人材の確保・養成	
(2) 人事給与制度	
第4 財務内容の改善に関する事項	
1 経営基盤の確立	26
2 収益の確保と費用の節減	27
(1) 収益の確保	
(2) 費用の節減	
第5 その他業務運営に関する重要事項	
1 情報の提供	30
2 環境に配慮した病院運営	31
第6 予算、収支計画及び資金計画	
1 予算（令和3年度）	33
2 収支計画（令和3年度）	34
3 資金計画（令和3年度）	35
第7 短期借入金の限度額	36
第8 出資等に係る不要財産の処分に関する計画	36
第9 重要な財産を譲渡し、または担保に供する計画	36
第10 剰余金の使途	36
第11 吹田市地方独立行政法人法施行細則で定める業務運営に関する事項	
1 施設及び設備に関する計画（令和3年度）	36

《添付資料》

地方独立行政法人市立吹田市民病院 令和3年度業務実績の法人自己評価一覧

## 1 地方独立行政法人市立吹田市民病院の概要

### (1) 現況（令和4年3月31日現在）

①法人名 地方独立行政法人市立吹田市民病院

②所在地 吹田市岸部新町5番7号

③設立年月日 平成26年4月1日

④役員状況

役職	氏名	備考
理事長	矢野 雅彦	
副理事長	内藤 雅文	病院長
理事	戎井 力	副院長
理事	四宮 眞男	吹田市医師会裁定委員
理事	鈴木 省三	副院長
理事	前田 哲生	副院長
理事	中筋 知美	副院長
理事	木田 利明	事務局長
監事	足立 光三	公認会計士
監事	児玉 憲夫	弁護士

⑤設置・運営する病院 市立吹田市民病院

⑥職員数（正規職員） 633名

（内訳）医師 100名、看護師 358名、医療技術員 119名、その他 56名（うち派遣職員 12名）

### (2) 基本的な目標等

吹田市内には当院のほか、国立循環器病研究センター、大阪大学医学部附属病院といった特定機能病院や、済生会吹田病院、済生会千里病院などの急性期病院が整備されており、多くの医療機関が集積している。

その中でも当院は、「市民とともに心ある医療を」の基本理念に基づき、急性期医療、高度医療及び救急医療の提供を中心に、地域の中核病院としての機能を発揮することがこれからも期待される。

今後更に公立病院としての役割を果たしていくためには、患者ニーズの変化を的確に捉え、それに応じた良質な医療を提供するとともに、経営の効率化や経営基盤の安定化を図る必要がある。

市民の生命と健康を守るという目的を達成するため、当院は地方独立行政法人としての強みを発揮しながら、引き続き公立病院としての役割を果たすこと、医師をはじめ全職員の経営に対する意識改革を図り、目標達成に向け一丸となった協力体制の構築に取り組むこと、そしてサービスの向上と効率的な運営を行うことに取り組むものとする。

## 2 全体的な状況

### (1) 総括

第2期中期計画期間の最終年度となる令和3年度は、依然、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、同感染症の対応など公立病院としての役割と急性期病院としての役割の両立を図る必要があるため、経営状況の改善、病診連携の推進、職員の意識改革を最優先課題とし効率的な運営に取り組んだ。

経営改善については、新型コロナウイルス感染症患者の受入を行う病棟を設けたことで病床数が制限され、新入院患者数は減少し目標達成には至らなかったものの、手術件数の確保や平均在院日数の短縮などの取組を行うことにより、入院診療単価は対前年度より増となり、また、外来診療単価についても、化学療法件数の増加等が要因となり、対前年度より増加し、いずれも目標を達成することができた。このような収益確保のための取組による診療単価の上昇と新型コロナウイルス感染症に係る補助金等が主な要因となり経常収支比率は目標を達成することができた。

病診連携の推進では、当日の受入依頼について、返答までの時間を短縮するよう直接医師に受入の可否を確認する体制の構築や、かかりつけ医の選定を目的として、患者向けの登録医マップを院内 7 か所に掲示するなど整備を図ったことにより、登録医の数は前年度末から 89 件増え、また、紹介件数、逆紹介件数はいずれも目標を達成し、紹介率は 72.1%、逆紹介率は 70.0%と昨年度より上昇した。

職員の意識改革については、毎月の業務状況や年度計画の進捗状況、収支状況などを全職員が容易に閲覧できるようにしているほか、当院の財務状況が把握できるよう他病院の経営管理指標を用いた財務分析研修を実施し、引き続き職員の経営参画意識の向上に努めた。また、病院長のビデオメッセージにより病院経営に対する認識の共有化を図るとともに病院への帰属意識の向上に努めた。

令和4年度は新たな計画期間となるが、患者確保はもとより、診療単価の一層の上昇を図り、人件費、材料費、経費等の費用と均衡のとれた収益を確保し、経営状況を改善することで、引き続き公立病院としての役割や地域医療構想を踏まえた役割を果たすことができるよう、今後も必要な取組を行うものである。

なお、年度評価実施要領第 3 条第 1 号に基づき、小項目ごとに 5 段階の自己評価を行ったことから、その内容を以下のとおり示す。

### (2) 大項目ごとの特記事項

#### 第 1 年度計画の期間

特になし

#### 第 2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取組

市立病院として担うべき医療については、急性期医療、高度医療及び救急医療の提供を中心に、地域の中核病院として必要な医療を提供した。救急医療については、新型コロナウイ

ルス感染症が収束しない中、感染症患者やその疑いがある患者の診療対応と並行して 24 時間 365 日の医療体制を引き続き確保に努めたものの、感染症の拡大により入院制限を実施する等、患者受入を断らざるを得ない状況が続いたことにより時間外救急車搬送受入率、救急車搬送受入件数ともに目標値には至らなかった。がん医療については、集学的治療の推進を図り、化学療法は肺がんの患者数に増加が見られ、放射線治療件数は 5,665 件、手術件数は 890 件となり、目標達成に至った。

安心安全で患者満足度の高い医療の提供については、インシデント・アクシデントの発生要因、再発防止策を検討し、職員へ周知を図るとともに意識向上に努めた。提供した医療に起因する有害事象の報告をオカレンスレポートと定義し、令和 3 年 11 月から運用を開始した。コロナ禍における標準的対応方針として、職員の健康観察、黙食の徹底など予防対策に取り組むとともに、大阪府のフェーズに合わせた院内対応方針に基づき、面会の許可制、会議や研修の制限などの取組を徹底し、院内での感染拡大防止に努めた。

本市の地域包括ケアシステムの構築に貢献する地域完結型医療の体制づくりについては、当日の受入依頼について、返答までの時間を短縮するよう直接医師に受入の可否を確認する体制を構築した。逆紹介先及びかかりつけ医の選定を目的として患者向けの登録医マップを院内 7 か所に掲示した。登録医の数は 427 件となり、前年度末から 89 件増えた。紹介件数は 17,181 件、逆紹介件数は 12,005 件となっており、目標値をクリアした。紹介率は 72.1%、逆紹介率は 70.0%と昨年度より上昇した。

健都における総合病院としての役割については、診療科ごとに役割分担を整理し、国立循環器病研究センターからの消化管出血をはじめ当院で対応可能な患者の受入を行ったほか、救急対応協力のみならず同センターへの医師派遣を行った。また、同センターの PET-CT や当院の内視鏡機器など医療機器の相互利用を進めた。同センターから当院への紹介件数は 832 件、当院からの紹介件数は 697 件であり、前年度と比較して増加した。電子カルテの相互閲覧について、継続して連携が円滑に進むよう取り組み、連携患者数は 149 件となった。

地域医療への貢献としては、吹田呼吸ケアを考える会において、新型コロナウイルス感染症に関するセミナーをオンデマンド配信で実施した。特別な配慮を必要とし、一般歯科医院では対応が困難な患者の歯科診療について、新型コロナウイルス感染症対策を講じる等、安全な体制のもと実施した。小児科医師（小児神経専門医）が、毎週 1 回市の施設（わかたけ園）に出向き診察を行った。

### 第 3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組

P D C A サイクルによる目標管理の徹底について、中期計画や年度計画、当年度の重点方針を全職員に通知するとともに、診療単価向上のための診療科別ヒアリングを実施し、各課題に責任者を設定し進捗管理を行った。重点方針に掲げたもののうち、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下においても紹介率 70%、逆紹介率 65%以上を達成することができた。また、診療単価の目標を達成した。毎月の業務状況や年度計画の進捗状況、収支状況、院長通知を電子カルテ端末上で全職員が容易に閲覧できるようにしているほか、入院患者数などの状況を電子カルテトップページ上で毎日更新し、引き続き職員の経営参画意識の向上

に努めた。部長会において定期的な経営状況の報告を行ったほか、病院長のビデオメッセージにより経営改善の必要性について全職員に周知した。

働きやすい職場環境の整備について、専用タブレットを地域医療連携システムと接続し、令和3年7月から電子カルテが自宅でも閲覧可能となり、脳神経外科で運用を開始した。

#### 第4 財務内容の改善に関する目標を達成するための取組

経営基盤の確立について、経営感覚に富む人材育成のため、新規採用職員に対し会計制度等についての研修及び全職員に対しては経営状況についての研修を開催し、経営に関する知識の向上を図った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、医業収支比率については目標達成ができなかったが、経営改善に努めたこと及び新型コロナウイルス感染症に係る補助金等により経常収支比率の目標を達成することができた。

収益の確保について、手術件数の確保や平均在院日数の短縮などを適切に行うことにより、入院診療単価は対前年度 5,466 円 (8.5%) 増となり、年度目標を達成することができた。新入院患者数については新型コロナウイルス感染症患者の受入を行う病棟を設けたことで病床数が制限され対前年度で 253 人減少し目標達成には至らなかった。外来診療単価については、化学療法件数の増加等が要因となり、対前年度で 936 円 (5.0%) 増加し、目標を達成することができた。

費用の節減について、給与費比率、経費比率については、削減に努めたものの新型コロナウイルス感染症拡大の影響による医業収益の減少が主な要因となり目標達成には至らなかった。医薬品について、12 品目の後発医薬品を新たに採用したことによって、数量シェアベースにおける採用率を 90.3%まで引き上げることができた。医薬品・医療材料について、ベンチマークシステムを活用しながら価格交渉を行い、購入単価は削減したが、高額薬剤の使用数増加に伴い、購入総額が増加したことにより、材料費比率の目標値を達成することはできなかった。

#### 第5 その他業務運営に関する重要事項を達成するための取組

情報の提供について、当院の特色ある診療内容を広く周知するために、病院だより、広報誌「ともに」での情報発信に加え、「内視鏡検査」、「産婦人科における産褥指導」の動画をホームページ上に掲載するとともに「吹田呼吸ケアを考える会 (SRCT)」の動画を希望者へ配信した。「脳神経内科」、「脳神経外科」、「小児外科」のパンフレットを作成し、医療連携を行う診療所等に引き続き設置し周知を図った。市民や患者が受診する際に安心して利用できるよう周知を図った。

環境に配慮した病院運営について、毎月ビルエネルギー管理システム (BEMS)によって蓄積されたデータを基に消費量を分析し、消費量が大幅に増加した部署へ消費抑制の注意喚起を行った。また、クールヒートピットの熱効率を利用し、環境負荷を抑えている。光熱水費の前年同月の比較表を院内ポータルサイトに掲載するとともに、節電・節水等の啓発ポスターを引き続き院内に掲示し、職員意識の啓発に努めた。

### 3 項目別の状況

#### 第1 年度計画の期間

特になし

#### 第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

##### 1 大阪府地域医療構想を踏まえて果たすべき役割

地域の医療機関との機能分担・連携を図りつつ、地域の診療所等では対応できない入院・手術を中心とした医療を提供するとともに、総合病院として急性期医療の提供を行うことにより、より多様な医療需要に対応した。また、大阪府地域医療構想において不足している回復期病床については、現病院への移転に伴い、一般病床の一部を回復期リハビリテーション病床（45床）に転換しており、引き続き急性期から回復期までの患者の状態像に応じた手厚いリハビリテーションを行った。

在宅医療の充実に向けた支援として、在宅医療に係る関係機関との円滑な連携による退院支援を行った。また、在宅療養者の病状が急変した際の受入を行うなどの在宅医療の後方支援を積極的に行うとともに、医療・介護・福祉のサービスが切れ目なく提供されるよう、地域医療ネットワークの連携の強化を図った。

##### 2 市立病院として担うべき医療

###### (1) 総論

がん疾患については、外来化学療法及び放射線治療の実施など、集学的治療を推進し効果的な治療に努めた。また、コロナ禍においても可能な範囲で内視鏡センターを活用し、がん疾患のほか呼吸器疾患についても質の高い治療を行うことができた。整形外科系疾患においては、リハビリテーション科で効果的なリハビリテーションを行った。

大阪府医療計画で推進が求められている5疾病（がん、脳血管疾患、心血管疾患、糖尿病、精神疾患）、4事業（救急医療、災害医療、周産期医療、小児医療）については、公立病院として必要とされる医療サービスを他の医療機関との機能分担・連携の下に適切に実施するとともに、質の高い医療の提供に努めた。

在宅医療については、在宅療養者の病状が急変した際には、地域のかかりつけ医と患者支援センターの病床管理担当の看護師が連携して円滑な受入を行った。

新型コロナウイルス感染症への対応として、市及び関係機関と連携・協力し、発熱外来及び地域外来検査センターを設置し、外来患者に対応したほか、専用病棟を設け、入院患者の受入を行うなど、市立病院として役割を果たした。

地域医療支援病院として、コロナ禍にあっても可能な範囲で開業医を訪問することで連携を密にとり、紹介率の向上に努めた。また、地域連携パスを活用し、逆紹介を推進することにより、地域で切れ目ない医療の提供に努めた。



## (2) 救急医療

### ア 二次救急医療機関としての円滑な救急応需体制の確保

(ア) 新型コロナウイルス感染症が収束しない中、感染症患者やその疑いがある患者の診療対応と並行して 24 時間 365 日の医療体制を引き続き確保し、地域の医療機関及び三次救急医療機関との連携・役割分担の下、地域における救急医療提供の中心的役割を果たせるよう努めた。

受け入れできなかった症例は救急部運営委員会において原因の検討を行ない、救急患者を断らないよう努めた。令和 3 年 7 月から救急科医師を増員して受入体制を強化するとともに、頭部外傷の受入率向上のため、脳神経外科において専用タブレットを地域医療連携システムと接続することで、電子カルテが自宅でも閲覧可能となる環境を整備した。しかし、感染症の拡大により入院制限を実施する等、患者受入を断らざるを得ない状況が続いたことにより時間外救急車搬送受入率、救急車搬送受入件数ともに目標値には至らなかった。

(救急車搬送受入件数：2,544 件（前年度 2,917 件）、時間外救急車搬送受入率：54.8%（前年度 68.8%）)

(イ) 救急病床を活用する等、救急患者を円滑に受け入れるための救急応需体制を確保したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、救急患者の受入率が減少した。(救急専用病床稼働率 22.3%（前年度 29.0%）)

(ウ) 時間内の救急搬送患者対応について、救急科部長を中心に救急隊からの受入要請に対し、迅速に受入可否の判断をするとともに適切な診療科で対応するなどのスムーズな受入体制で運用した。

### イ 初期救急医療における機能分担・連携

地域の医療機関との連携推進やかかりつけ医定着の促進について、ホームページや広報誌、患者への啓発用チラシの配布等、初期救急医療において地域の医療機関との機能分担を図った。

#### 【目標指標】

項目		令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
時間外救急車搬送受入率	年度計画 目標	88.3%	89.2%	90.0%
【中期計画目標※】 90.0%	実績	77.5%	68.8%	54.8%

※平成 30 年度から令和 3 年度までの第 2 期中期計画期間の目標値。(以下同様)

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
救急車搬送受入件数 【中期計画目標】 4,320件	年度計画 目標	4,230件	4,270件	4,320件
	実績	3,854件	2,917件	2,544件
うち時間内 【中期計画目標】 1,440件	年度計画 目標	1,400件	1,420件	1,440件
	実績	1,376件	1,138件	950件
うち時間外 【中期計画目標】 2,880件	年度計画 目標	2,830件	2,850件	2,880件
	実績	2,478件	1,779件	1,594件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
救急専用病床稼働率 【中期計画目標】 90.0%	年度計画 目標	88.0%	89.0%	90.0%
	実績	43.0%	29.0%	22.3%

### (3) 小児医療、周産期医療

#### ア 小児医療

二次医療圏内の小児救急診療について、豊能広域こども急病センターの後送病院として週4回の二次救急輪番を努め、地域に必要とされる役割を果たした。

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
小児時間外救急搬送応需率	実績	95.7%	97.3%	92.2%

#### イ 周産期医療

陣痛から分娩後まで、部屋移動による負担が少なく安全なLDR（特別室）の活用に加え、多職種から専門的なサポートを受けることが出来る助産師外来や、ははとこ健診、産後のアロマセラピーを導入し、妊娠から産後まで幅広い支援を行い、安心してお産できる環境を継続して提供した。結果、前年度より分娩件数の増加に繋がった。

糖尿病等の合併症をもった妊婦、中程度のリスクのある分娩や開業医では対応の難しい妊娠管理や分娩管理が必要な妊婦の受入体制を維持した。

分娩においてハイリスクを有する妊婦については、検診の段階で高次医療対応が可能な周産期母子医療センターへ紹介するなどし、安心安全な周産期医療体制を確保した。

【関連指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
小児科患者数 (入院)	実績	7,767 人	4,345 人	4,140 人
項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
小児科患者数 (外来)	実績	11,606 人	9,164 人	9,265 人

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
小児救急搬送患者数	実績	625 人	273 人	442 人
うち 小児救急入院患者数	実績	548 人	188 人	198 人

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
分娩件数	実績	309 件	293 件	312 件

(4) 災害医療

ア 市の災害医療センターとしての役割

(ア) 災害対策訓練として、10月に地震を想定した大規模災害訓練(医師10人、看護師55人、コメディカル7人、事務13人、計85人参加)を実施し、2月に防火訓練を実施する予定であったが、院内における新型コロナウイルス感染症対応から、防火訓練は中止し、火災時の通報、消火、避難、また消防設備の解説を収録した動画を作成し、全職員に周知した。併せて災害対策委員による模擬消火器消火訓練を実施した。また、院外での訓練、研修参加については、10月と12月にオンラインで行われた豊能二次医療圏大規模災害時医療連携強化プロジェクト研修(延べ看護師4人、事務6人、計10人)に参加した。

DMAT参加経験のある医師が赴任し、災害対策委員会のメンバーとなり、自身の体験からの発言により、委員会が活性化された。災害対策委員会を10回開催し、訓練内容の検討及び訓練結果の反省、防火動画の作成に取り組み、防災マニュアル及び事業継続計画(BCP)の改訂を行った。

(イ) 院内新型コロナウイルス感染症対応により、全部署が取り組むトリアージを含めた災害体制の訓練実施は難しく、初動対応と災害対策本部機能の再確認を中心に大規模災害を想定した実地訓練を10月に実施し、訓練を基に災害対策委員会にて初動対応の見直し、新たに導入した安否確認システム、備蓄品等を追記し、防災マニュアルを改訂した。

防災マニュアルの改訂に併せて、事業継続計画(BCP)を改訂した。

## イ 市及び地域の医療機関との連携体制

(ア) 新型コロナウイルス感染症の影響により、10月にオンラインで行われた豊能二次医療圏大規模災害時医療連携強化プロジェクト研修でEMIS(大阪府救急・災害医療情報システム)の情報伝達、トリアージ机上訓練、同研修の一環で12月に災害時新型コロナウイルス感染患者の受入要請訓練を済生会千里病院と行った。また、大阪大学医学部附属病院での災害時新型コロナウイルス感染患者の受入訓練に見学参加した。

(イ) 新型コロナウイルス感染症への対応として、市及び関係機関と連携・協力し、発熱外来及び地域外来検査センターを設置し、外来患者に対応したほか、専用病棟を設け、入院患者の受入を行うなど、市立病院として役割を果たした。また、吹田市からの要請により入院待機ステーションの設置に協力した。ワクチン接種についても、地域の医療従事者、高齢者や妊産婦等を対象に行った。

感染管理認定看護師が高齢者施設等に対して感染防止対策等の研修を計3回行うとともに、クラスターの発生した医療機関や高齢者施設に対してラウンドや研修を行い、再発防止に向けた支援を計6回行った。

### 【関連指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
災害訓練回数	実績	2回	2回	1回

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
災害訓練参加人数	実績	173人	122人	85人

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
災害医療院外研修参加回数	実績	2回	1回	2回

## (5) がん医療

### ア 大阪府がん診療拠点病院としてのがん診療体制の整備

(ア) 医師、看護師、コメディカル等がチームとして症例検討会を行い、他科と連携協力し、患者にとって最良な治療方法となるよう集学的治療の推進を図った。また、緩和ケアチームによる介入を行い、精神面等のフォローも積極的に行った。

化学療法は肺がんの患者数に増加が見られ、放射線治療は5,665件の実施を行った。手術においても890件行い、目標達成に至った。

がん診療地域連携パスについては、開業医訪問の際に活用を促し、また、院内での各種委員会等において活用を推進するなど、積極的な運用を行うように努めた。しかし、コロナ禍における受診控えの影響で対象となる患者が減少していたこともあり、年度目標の40件に

対して 23 件に留まった。

(イ) 常勤放射線治療専門医や放射線治療における機器の精度管理を専従とする診療放射線技師の配置を引き続き行い、質の高い放射線治療を提供できる体制を確保し、5,665 件の放射線治療を実施した。

(ウ) がんのリハビリテーションの推進を図るため、がんの専門的知識を有する技師を育成し、療養生活の質の維持向上を目的とする質の高いリハビリテーションの提供に努めた。

がん情報コーナーの整備を行うとともに、院内にがん相談支援センターのポスター掲示、リーフレットの設置など、がん相談支援センターの周知を図り情報提供及び相談支援に繋げた。

緩和ケアについては、入院時に疼痛のスクリーニングを実施し、週 1 回ラウンドを行うなど積極的に介入するとともに日本緩和医療学会 PEACE プログラムに基づき、緩和ケア研修会を実施した。(17 名参加)

#### イ がん予防医療の取組

(ア) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、肺がん検診及び大腸がん検診は実施できなかったが、子宮がん検診、胃がん内視鏡検診及び乳がん検診は継続して実施した。

項目		令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
肺がん検診	実績	720 件	27 件	0 件

項目		令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
大腸がん検診	実績	597 件	23 件	0 件

(イ) 市民公開講座をオンラインにて実施し、内視鏡検査における当院のがん治療及びがん検査の啓発について取り上げ、同内容の動画をホームページ上に掲載し、閲覧できるようにした。

#### 【目標指標】

項目		令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
がん入院患者件数	年度計画 目標	2,040 件	2,080 件	2,120 件
	【中期計画目標】 2,120 件 実績	2,236 件	2,487 件	2,772 件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来化学療法件数  【中期計画目標】 2,650件	年度計画 目標	2,550件	2,600件	2,650件
	実績	3,135件	3,322件	3,771件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
放射線治療件数  【中期計画目標】 3,800件	年度計画 目標	3,270件	3,540件	3,800件
	実績	5,578件	4,978件	5,665件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
がん手術件数  【中期計画目標】 700件	年度計画 目標	680件	690件	700件
	実績	851件	813件	890件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
がん診療地域連携パス実 施件数  【中期計画目標】 40件	年度計画 目標	25件	30件	40件
	実績	25件	18件	23件

#### 【関連指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
がん患者リハビリテーシ ョン単位数（※）	実績	1,066	2,294	2,709

（※）単位数とは、20分を1単位とするリハビリテーションの実施数（以下同様）

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
がん相談件数	実績	584件	772件	759件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
緩和ケアチーム介入件数	実績	175件	147件	158件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
がん検診受診者数	実績	3,273人	1,403人	1,473人

#### (6) リハビリテーション医療

##### ア 回復期リハビリテーション病棟を活用した在宅復帰への支援

急性期患者については、365日のリハビリテーション実施体制の下、引き続き廃用症候群の予防や早期離床を目的としたリハビリテーションを実施した。

他病院からの脳血管疾患の患者の受入が減少したため、脳血管疾患等リハビリテーションは減少したが、整形外科等の術後に回復期リハビリテーション病棟へ転棟する症例が増加し、運動器リハビリテーション実施単位数の増加となった。

病床利用率は目標値には届かなかったものの前年度実績より大きく改善し、リハビリテーション実施単位数は前年度実績と同等であった。

##### イ 高齢化の増加に伴う疾患の増加への対応

がん患者や呼吸器疾患患者について、早期にリハビリテーションの介入を実施し、患者の状態等を勘案して、最も適切なリハビリテーションを提供することで、患者の自立度向上に取り組んだ。

#### 【目標指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
回復期リハビリテーション病棟病床利用率 【中期計画目標】 95.0%	年度計画目標	95.0%	95.0%	95.0%
	実績	73.3%	75.1%	84.0%

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
回復期リハビリテーション病棟在宅復帰率 【中期計画目標】 80.0%	年度計画目標	70.0%	80.0%	80.0%
	実績	86.9%	86.7%	94.7%

#### 【関連指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
早期リハビリテーション単位数	実績	41,938	54,646	55,029

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
がん患者リハビリテーション単位数（再掲）	実績	1,066	2,294	2,759

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
呼吸器リハビリテーション単位数	実績	2,515	2,515	2,710

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
脳血管疾患等リハビリテーション単位数	実績	57,011	75,509	63,786

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
運動器リハビリテーション単位数	実績	43,077	50,056	59,558

### 3 安心安全で患者満足度の高い医療の提供

#### (1) 安心安全な医療の提供

##### ア 医療の安全管理体制の確保

(ア) 医療安全管理委員会等を毎月開催し、インシデント・アクシデントの発生要因、再発防止策を検討し、検討結果を毎月の部長会を通じ、職員へ周知を図るとともに全職員を対象に医療安全研修を2回行った。医療安全研修では、理事長自らがインシデント・アクシデントの報告状況や他病院での医療事故の事例をもとにした当院の改善点についての講演を行い、職員の医療安全管理体制に対する意識向上に努めた。さらに、医師の意識向上のため、インシデント・アクシデント報告のうち、提供した医療に起因する有害事象の報告をオカレンスレポートと定義し、令和3年11月から運用を開始した。

高難度新規医療技術を用いた医療等に際し、新たに院内委員会を設置し、提供の適否を評価するなど診療を適正に提供するための体制を整備した。

手術中のルールの見直しとして、緊急事態に国立循環器病研究センターに応援依頼を早急に行うためのホットラインを設置、緊急輸血マニュアルの策定等を行い、医療事故発生防止に努めた。

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
インシデント件数	実績	1,780件	1,644件	1,194件
アクシデント件数	実績	23件	13件	48件



(イ) コロナ禍における標準的対応方針として、職員の健康観察、黙食の徹底など予防対策に取り組むとともに、大阪府のフェーズに合わせた院内対応方針に基づき、面会の許可制、会議や研修の制限などの取組を徹底し、院内での感染拡大防止に努めた。

#### イ 医療安全対策の徹底

(ア) 病院機能評価の評価項目に基づき、患者の安全確保に関するマニュアルである「医療事故防止マニュアル」を適宜改訂し、医療事故防止に努めた。また、院内でのインシデント・アクシデントを収集し、医療事故防止対策委員会で再発防止のための検討を行い、改善のため周知を行った。

(イ) 医療の安全管理研修として、全職員を対象に2回、職種別に11回実施した。院外においても医療安全室の職員を中心に19回の研修に参加した。院内感染防止対策として、全職員を対象に3回、職種別に10回の研修を実施した。ウェブ配信による院外研修を積極的に受講し、医療安全意識の向上に努めた。

#### 【関連指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
医療安全管理委員会 開催回数	実績	12回	12回	12回

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
医療安全関係院外研 修参加件数	実績	20件	9件	19件

#### (2) チーム医療の充実

##### ア チーム医療の仕組みを活用した質の高い診療・ケアの提供

多職種がそれぞれの専門スキルを活用し、チームで患者の療養生活のサポートを行うことで質の高い診療・ケアを提供した。

認知症ケアチームにおいては、認知症を有する患者の担当看護師と共にカンファレンスを実施し、認知症状の悪化の予防やケア、症状への改善に向けた介入を行った。

栄養サポートチームにおいては、コロナ禍における長期入院患者数の減、感染リスクを考慮し、チームによる介入を制限したものの、低栄養の患者の把握や栄養管理の提案を行い、病状の早期回復に努めた。

胃ろうの適応を考えるチーム（通称 JIP）では、退院後の生活状況や将来の療養場所の見直しなど総合的に検討し、患者や家族に胃ろうの選択を考える際の支援を行った。

## イ チーム医療の質の向上

多職種によるミーティングやラウンド等を通じて、課題の把握及び解決に努め、チーム医療の質の向上を図った。

認知症ケアチームにおいては、研修会や委員会等を通じて、認知症に関する知識やケアの目的の共有やスキルアップを図った。

栄養サポートチームにおいては、個々の症例に関して治療効果の促進や合併症の回避を目的として、病棟スタッフに対して、栄養療法や、栄養管理について助言を行い、チーム医療の質の向上を図った。

### 【関連指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
認知症ケアチーム介入件数	実績	295 件	425 件	408 件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
栄養サポートチーム介入件数	実績	1,266 件	1,127 件	656 件

### (3) コンプライアンスの徹底

#### ア 内部統制体制の整備

リスクへの適切な対応を行うため、令和2年度に実施したリスク評価をもとに業務におけるリスクを再確認し、適宜見直しを行った。また、市が選任した会計監査人による監査業務（会計実務指導や内部統制等）に係る指摘についても適切に対応を行った。

#### イ 職員の意識向上

個人情報保護の研修を実施するとともに、当日に参加できなかった職員向けに院内ポータルサイトに研修動画をアップし、個人情報保護に対する意識向上に努めたうえで、院内ポータルサイトによる個人情報に関する自己点検を行った。

個人情報保護推進委員会を開催し、今年度の研修結果を振り返り、来年度の個人情報保護研修内容について協議した。

### (4) 患者サービスの向上

#### ア 患者の視点に立ったサービスの提供

(ア) 声の箱に寄せられた様々な要望・意見を医療改善委員会で検討し、患者サービスの向上・改善を図った。

入院患者の患者満足度を把握するために退院患者アンケートや外来患者満足度調査を実施した。令和3年度の退院患者アンケートでは、職員の接遇について「よい」の評価が91.2%、

「ふつう」が8.7%、「わるい」が0.1%との結果であった。

外来患者満足度調査について、全国の傾向（ベンチマーク）と比較して、診療の内容や診察時間、医師・看護師の対応などについては満足度が高く、「親しい方にすすめられる病院」と回答のあった結果が全国平均より高かった。

（イ） 4月に新規採用者を対象に接遇研修を実施し、21名が参加した。患者対応において常に親切・丁寧な説明を心掛け、患者サービスの向上に努めた。

（ウ） 患者利便施設（売店、レストラン、カフェ、自動販売機）の事業者に対して、商品やメニューの要望、従業員の接遇改善など声の箱に寄せられた患者の意見を伝えて対策を講じるよう要請している。主な改善例として感染対策の意見があり、レストランのテーブルにアクリルによる遮へい板を設置した。また、利用者の要望でレストランでの営業開始時間を早めモーニングサービスを開始した。

（エ） 院内ポータルサイトで月毎の患者の待ち時間を周知し、待ち時間短縮の意識付けを行った。また、令和4年1月より新たに皮膚科について、紹介患者・予約患者のみの紹介制外来を導入した。

#### イ 患者に寄り添ったサービスの提供

インフォームド・コンセントについては、当院のマニュアルに従い、分かりやすく丁寧な説明を実施した。

他院へのセカンド・オピニオンについては、22件であり、患者の希望の際には速やかに対応した。当院へのセカンド・オピニオンについてはホームページ等で周知を図っており、4件であった。

#### ウ 院内ボランティア活動への支援

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、院内のボランティア活動は自粛していたが、屋上庭園の花の手入れについては新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら実施した。

#### 【関連指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
声の箱投書件数	実績	332件	84件	116件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
患者満足度調査結果	実績	—	—	1回 337/1,490

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
セカンド・オピニオン 対応件数	実績	9件	3件	4件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
ボランティア登録人数	実績	59人	60人	61人

#### 4 本市の地域包括ケアシステムの構築に貢献する地域完結型医療の体制づくり

(1) 地域の医療機関（かかりつけ医等）との機能分担・連携

ア 紹介・逆紹介の徹底

(ア) 当日の受入依頼については、返答までの時間を短縮するよう直接医師に受入の可否を確認する体制を構築した。また、開業医が当院ホームページから書類をダウンロードして活用できるようにするなど紹介時の負担軽減を図った。

登録医数は427件で、前年度末から89件増加した。

逆紹介先及びかかりつけ医の選定を目的として患者向けの登録医マップを院内7か所に掲示した。

紹介件数は17,181件、逆紹介件数は12,005件となっており、目標値をクリアした。紹介率は72.1%、逆紹介率は70.0%と昨年度より上昇した。

(イ) 逆紹介については、大腿骨頸部骨折等の地域連携パスを活用し、引き続き推進することにより地域で切れ目なく医療の提供に努めるとともに逆紹介患者が急変した際にはコロナ禍においても可能な限り受け入れに努めた。

地域連携パスの実施件数は120件となり目標を達成した。

(ウ) 当院のカルテを閲覧するシステムについては、国立循環器病研究センターとの運用を踏まえ、今年度から診療所との連携を試行開始した。

イ かかりつけ医定着に関する啓発

逆紹介先及びかかりつけ医の選定を目的として登録医マップを作成し、院内7か所に掲示するとともに、2階に設置しているデジタルサイネージ（電光掲示板）において、かかりつけ医定着の啓発ポスターを表示した。また、病院だよりにおいて、地域医療支援病院の取得に関する記事を掲載し、当院とかかりつけ医の役割分担の必要性について啓発を行った。

登録医の数は427件となり、前年度末から89件増えた。

**【目標指標】**

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
紹介件数  【中期計画目標】 17,000件	年度計画 目標	16,000件	16,500件	17,000件
	実績	19,827件	17,286件	17,181件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
逆紹介件数  【中期計画目標】 11,500件	年度計画 目標	10,700件	11,100件	11,500件
	実績	13,863件	12,287件	12,005件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
紹介率  【中期計画目標】 64.0%	年度計画 目標	58.0%	61.0%	64.0%
	実績	70.1%	70.7%	72.1%

紹介率=初診紹介件数/初診患者数

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
逆紹介率  【中期計画目標】 84.0%	年度計画 目標	78.0%	81.0%	84.0%
	実績	57.7%	65.0%	70.0%

逆紹介率=逆紹介件数/初診患者数

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
地域連携パス実施件数  【中期計画目標】 100件	年度計画 目標	60件	80件	100件
	実績	120件	126件	120件

**【関連指標】**

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録医数	実績	284件	338件	427件

## (2) 在宅医療の充実に向けた支援

### ア 退院支援

(ア) 訪問看護ステーションが主催した「多職種交流研修会」等、在宅医療の研修会に参加し、医師、訪問看護師、介護支援専門員（ケアマネジャー）等と情報交換し連携を図った。

また、入院前から退院困難な患者を把握し、入院早期から入退院支援部門と医療福祉相談部門が連携を図り、退院支援を行った。

(イ) 入院患者の退院支援が円滑に進むよう入院診療計画に基づき、医師・看護師・リハビリスタッフ等の多職種で療養の方針を検討するとともに、患者、家族の意向を面談等で確認し、退院支援を行った。また、在宅医療の関係機関である、診療所の医師、介護支援専門員、訪問看護ステーションと入院早期から十分に情報共有し調整を図った。

(ウ) 入院前から介護支援専門員等と連携を図り、入院後は週1回院内の医師、看護師、リハビリスタッフ等の多職種カンファレンスで方針の確認を行いながら退院支援を進めるとともに、在宅医療への移行が円滑に進むよう、退院前には、介護支援専門員、訪問看護師等と、カンファレンスを行い、在宅医療体制のサポートを行った。また、退院後の患者に関する相談窓口として、介護支援専門員や訪問看護師等からの問い合わせに対応するなどサポートを行った。

### イ 在宅療養者の急変時の受入れ

在宅療養者が急変した場合、通常時間内では、患者支援センターの病床管理担当と地域医療連携担当が連携し、円滑に受入を実施している。時間外では救急病棟を活用するなど、救急科による受入を実施した。

### ウ 地域医療ネットワークの連携強化

吹田呼吸ケアを考える会において、地域の関係機関にアンケートを実施し、要望のあった新型コロナウイルス感染症に関するセミナーをウェブで開催した。

また、地域で開催される吹田市在宅医療・介護連携協議会、吹田市ケアネット実務者懇話会等の会議に参加し、情報交換を行うことでネットワークの強化を図った。

#### 【関連指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
退院支援件数	実績	2,561件	2,964件	2,995件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
医療相談件数	実績	11,346件	11,112件	11,256件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
介護支援連携件数	実績	148件	86件	59件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
当日入院件数 (紹介)	実績	1,651件	1,287件	1,062件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
吹田在宅ケアネット 開催数	実績	2回	0回	0回

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
吹田呼吸ケアを考 える会開催数	実績	1回	0回	1回

## 5 健都における総合病院としての役割

### (1) 国立循環器病研究センターとの機能分担・連携

#### ア 診療における連携

診療科ごとに役割分担を整理し、国立循環器病研究センターからの消化管出血をはじめ当院で対応可能な患者の受入を行ったほか、救急対応協力のみならず同センターへの医師派遣を行った。

また、同センターの PET-CT や当院の内視鏡機器など医療機器の相互利用を進めた。

同センターから当院への紹介件数は 832 件、当院からの紹介件数は 697 件であり、前年度と比較して増加した。

#### イ その他の連携

コロナ禍の状況下においてセミナーや勉強会での相互交流は進まなかった。

電子カルテの相互閲覧について、継続して連携が円滑に進むよう取り組み、連携患者数は 149 件となった。

#### ウ 連携体制の周知

特定機能病院としての国立循環器病研究センターと総合病院としての市民病院がそれぞれのポテンシャルを発揮し、より良い医療提供ができるよう連携状況をホームページ等で周知を行った。

### 【関連指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
国立循環器病研究センターからの紹介件数	実績	571件	760件	832件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
国立循環器病研究センターへの紹介件数	実績	385件	534件	697件

#### (2) 他の健都内事業者等との連携

健都まちづくり連携会議に参加し、健都を構成する産学官民がそれぞれの特色を活かし、共同で事業を行える基盤（共創プラットフォーム）について意見交換を行った。

また、吹田市の施策である「たばこの煙のないまち（スモークフリーシティ）」の取組について、院内のデジタルサイネージにおいて、啓発動画を掲載した。

#### (3) 予防医療に関する取組

##### ア 各種検（健）診の実施

令和2年度に引続き、新型コロナウイルス感染症拡大に対応するため特定健診を中止した。そうした中であっても、マンモグラフィーなどの高度検査機器を用いた検診、また二次検診としての精密検査を地域の医療機関との役割分担の下、積極的に実施し疾病の早期発見に貢献した。

##### イ 人間ドックの実施

人間ドックについて、新型コロナウイルス感染症対応のため、令和2年度に休止した影響の回復に努めたものの目標の件数には至らなかった。（人間ドック実施件数 529件（前年度 156件）、脳ドック実施件数 158件（前年度 45件））

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
脳ドック	実績	188件	45件	158件

##### ウ 予防接種の実施

子宮頸がんワクチン 3回実施。

高齢者や妊婦を対象に新型コロナワクチン接種を実施した。（1,501回）

##### エ 疾病予防に関する講演会等の開催

ウェブ会議システムにて、市民公開講座は「内視鏡検査」をテーマとし、出張講座は「糖尿病」をテーマとして開催した。また、広報誌「病院だより」にてかかりつけ医についての記事を掲載し、かかりつけ医を持つことの意義や検診の大切さなどを周知した。



### 【目標指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
人間ドック件数  【中期計画目標】 550件	年度計画 目標	520件	540件	550件
	実績	616件	156件	529件

### 【関連指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
国保特定健診件数	実績	601件	24件	0件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
後期高齢者特定健診件数	実績	240件	0件	0件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
市民公開講座実施回数	実績	1回	0回	1回

## 6 地域医療への貢献

### (1) 地域の医療従事者への支援

#### ア 地域の診療所等への支援

新型コロナウイルス感染症拡大の状況下において、令和3年10月よりウェブ配信で臨床セミナーを5回行った。(内容「免疫アレルギーが関連する病気」、「Advance Care Planning について」、「認知症の症候学」等)

令和4年2月には登録医総会をウェブ配信で開催し、講演「当院の大腸がん治療について」や各診療科紹介、意見交換等を実施した。また、令和4年3月には吹田呼吸ケアを考える会の研修会をオンデマンド配信にて実施した。

地域の医療従事者を対象とした研修を計7回実施し、参加者数は239人であった。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、CT等の高度検査機器の共同利用件数は2,945件で目標を下回った。(検査2,944件、共同診療1件)

#### イ 地域の医療水準の向上

地域の医療水準の質の向上を図るため、吹田呼吸ケアを考える会において、新型コロナウイルス感染症に関するセミナーをオンデマンド配信で実施した。

**【目標指標】**

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
地域の医療従事者へ向けた研修会開催回数 【中期計画目標】 36回	年度計画目標	36回	36回	36回
	実績	31回	6回	7回

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
地域の医療従事者へ向けた研修会外部参加人数 【中期計画目標】 900人	年度計画目標	900人	900人	900人
	実績	543人	86人	239人

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
共同利用を行った件数 【中期計画目標】 3,700件	年度計画目標	3,500件	3,600件	3,700件
	実績	3,718件	3,105件	2,945件

**【関連指標】**

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
吹田臨床カンファレンス開催回数	実績	1回	0回	0回

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
吹田在宅ケアネット開催回数（再掲）	実績	2回	0回	0回

項目		令和元年度	令和元年度	令和3年度
吹田呼吸ケアを考える会開催回数（再掲）	実績	1回	0回	1回

(2) 福祉保健施策への協力・連携

ア 障がい者（児）歯科診療の実施

特別な配慮を必要とし、一般歯科医院では対応が困難な患者の歯科診療について、新型コロナウイルス感染症対策を講じる等、安全な体制のもと実施した。

#### イ 小児科診療における協力・連携

小児科医師（小児神経専門医）が、毎週 1 回市の施設（わかたけ園）に出向き診察を行った。また、療養相談や関係者会議などに出席するなど、市の実施する療育事業への協力を行った。

#### 【関連指標】

項目		令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
障がい者歯科患者数	実績	1,599 人	1,486 人	1,669 人

### 第 3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

#### 1 PDCAサイクルによる目標管理の徹底

##### ア 重点方針の共有及び目標達成に向けた取組

中期計画や年度計画、当年度の重点方針を全職員に通知するとともに、診療単価向上のための診療科別ヒアリングを実施した。経営戦略会議において抽出された課題に対する解決策を協議し、各課題に責任者を設定し進捗管理を行った。重点方針に掲げたもののうち、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下においても紹介率 70%、逆紹介率 65%以上を達成することができた。また、診療単価の目標を達成した。

##### イ 目標管理の徹底

新型コロナウイルス感染症拡大の影響がある状況においても、診療科別ヒアリングにて平均在院日数の短縮等、収益改善のための方策を確認し、経営戦略会議等で進捗管理を行った。また、診療科別ヒアリング時に確認された複数診療科または多職種にまたがるような案件については、担当責任者として副院長を設定し、各種院内委員会等において検討し課題の解決を図った。

##### ウ 経営改善に向けた取組

毎月の業務状況や年度計画の進捗状況、収支状況、院長通知を電子カルテ端末上で全職員が容易に閲覧できるようにしているほか、入院患者数などの状況を電子カルテトップページ上で毎日更新し、引き続き職員の経営参画意識の向上に努めた。

部長会において定期的な経営状況の報告を行ったほか、病院長のビデオメッセージにより経営改善の必要性について全職員に周知した。

経営改善に向けた取組として、全職員を対象に当院の財務状況が把握できるように他病院の経営管理指標を用いた財務分析研修を実施した。

## 2 働きやすい職場環境の整備

### (1) 医療職の人材の確保・養成

#### ア 働きやすい職場環境づくり

(ア) 専用タブレットを地域医療連携システムと接続し、令和3年7月から電子カルテが自宅でも閲覧可能となり、脳神経外科で運用を開始した。

(イ) 看護師を対象に誕生日は、休暇等を取得しやすくする取組を実施した。コロナ禍のため旅行等の制限があったことから来年度も引き続き取組を継続し、評価する。

#### イ 医療従事者の質の向上と研修・指導体制の充実

(ア) 医療従事者等に対して、認定医等の資格取得や研修参加に係る費用への支援を行うことで医療の質の向上を図った。

(イ) 研修内容だけでなく、研修医全般に関することについて、課題毎にワーキングチームを編成することとした。優秀な医学生を募るために、研修医採用に係る情報発信力の強化を目的としたホームページの改善をワーキングチームで検討を進めた。

#### 【目標指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
助産師看護師離職率	年度計画 目標	11.5%	10.6%	全国平均 以下
【中期計画目標】 全国平均以下	実績	3.7%	3.0%	8.6%

#### 【関連指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
認定看護師数	実績	12人	12人	12人

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
専門看護師数	実績	2人	1人	1人

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
認定等資格更新支援件数	実績	99件	91件	110件

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
看護学生実習受入数	実績	371人	68人	163人

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
医学生実習受入数	実績	27人	12人	30人

## (2) 人事給与制度

### ア 職員給与の設定・運用

令和3年度の人事院勧告は期末手当の支給月数を引き下げる事となったが、国家公務員はコロナ禍での経済の影響を考慮し、令和3年冬の期末手当では引き下げは行われなかった。当院の賞与の水準は国家公務員及び吹田市を下回っていることから、現状の水準を維持した。

### イ 人事評価制度の運用

コロナ禍により各科病床数が変動し目標設定することが困難であるため試行実施を延期したが、令和4年度からの試行、令和5年度からの本格実施に向けて、職員が制度を正しく理解し、公平な人事評価を行うことができるよう評価方法を示したガイドブックを各職種の意見を取り入れて作成し準備を整えた。

## 第4 財務内容の改善に関する事項

### 1 経営基盤の確立

経営感覚に富む人材育成のため、新規採用職員に対し会計制度等についての研修及び全職員に対しては経営状況についての研修を開催し、経営に関する知識の向上を図った。

病院業務に精通した職員の養成のため、職員体制計画のもと派遣職員をプロパー職員に置き換え、ジョブローテーションを実施した。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、医業収支比率については目標達成ができなかったが、手術件数の確保や平均在院日数の短縮等で経営改善に努めたこと及び新型コロナウイルス感染症に係る補助金等により経常収支比率の目標を達成することができた。

市からの運営費負担金を受け、救急医療や障がい歯科診療等の市立病院として必要とされる医療サービスを適切に実施した。

### 【目標指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
経常収支比率	年度計画 目標	92.0%	96.5%	98.6%
	【中期計画目標】 98.3%	実績 92.5%	102.5%	110.4%

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
医業収支比率  <b>【中期計画目標】</b> 90.6%	年度計画目標	88.7%	92.0%	92.0%
	実績	89.3%	88.1%	87.7%

## 2 収益の確保と費用の節減

### (1) 収益の確保

#### ア 収益の確保

コロナ禍において受入病床が制限される中、可能な限り救急患者、紹介患者の受入に努めたが、実績は前年度を下回った。

手術件数の確保や平均在院日数の短縮などを適切に行うことにより、入院診療単価は対前年度 5,466 円 (8.5%) 増となり、年度目標を達成することができた。新入院患者数については新型コロナウイルス感染症患者の受入を行う病棟を設けたことで病床数が制限され、対前年度で 253 人減少し目標達成には至らなかった。

外来診療単価については、化学療法件数の増加等が要因となり、対前年度で 936 円 (5.0%) 増加し、目標を達成することができた。

#### イ 未収金の発生予防・早期回収

患者負担額が大きい入院患者に対し、限度額適用認定証の利用を奨めることにより、未収金の発生予防及び金額の抑制に努めた。

救急等で現金がない場合にも対応できるように、すべての自動精算機でクレジットカードを使用できるようにしている。

『医業未収金回収管理マニュアル』に基づき督促等を実施するなど早期回収に努めた。

### 【目標指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
病床利用率  <b>【中期計画目標】</b> 90.0%	年度計画目標	90.0%	90.0%	90.0%
	実績	88.3%	78.3%	72.1%

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
入院患者数 (1日当たり)  <b>【中期計画目標】</b> 387.7人	年度計画目標	387.7人	387.7人	387.7人
	実績	380.5人	337.5人	310.9人

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来患者数 (1日当たり) 【中期計画目標】 1000人	年度計画 目標	1,000人	1,000人	1,000人
	実績	902.7人	833.9人	883.9人

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
入院診療単価 【中期計画目標】 54,170円	年度計画 目標	53,792円	59,992円	61,000円
	実績	57,733円	64,389円	69,855円

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来診療単価 【中期計画目標】 16,061円	年度計画 目標	14,988円	15,982円	16,061円
	実績	17,448円	18,873円	19,809円

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
新入院患者数 【中期計画目標】 9,435人	年度計画 目標	9,435人	9,435人	9,435人
	実績	10,460人	9,393人	9,140人

## (2) 費用の節減

### ア 人件費・経費の適正化

(ア) 引き続き、収益を考慮した適切な人員配置について検討するとともに、新たな業務に対応できるように採用計画の見直しを行った。

特定の職員に業務が集中していないか所属長に確認し、配慮するよう周知するなどの取組を実施したことにより時間外労働時間数の目標を達成することができた。

給与費比率については、人件費削減に努めたものの新型コロナウイルス感染症拡大の影響による医業収益の減少が主な要因となり目標達成には至らなかった。

(イ) 消耗品の経費削減のため、中古品の在庫状況をまとめた「総務室在庫物品一覧表」を用いて、物品を新規購入するのではなく中古品を使用すること等の取組を引き続き行った。また、消耗品請求時には詳細な購入理由、用途、同等品変更への可否を記載するよう引き続き徹底を図った。

光熱水費は前年同月と比較し、消費の分析に努めた。光熱水費の前年同月の比較表を院内ポータルサイトに掲載し職員意識の普及啓発を行なった。

経費比率については、経費削減に努めたものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、医業収益が減少したことが主な要因となり目標達成に至らなかった。

#### イ 材料費の適正化

医薬品について、12品目の後発医薬品を新たに採用したことによって、数量シェアベースにおける採用率を90.3%まで引き上げることができた。

医療材料について、採用品の価格交渉及び安価な商品への切替を実施し、費用の削減に努めた。

医薬品・医療材料について、ベンチマークシステムを活用しながら価格交渉を行い、購入単価は削減したが、高額薬剤の使用数増加に伴い、購入総額が増加したことにより、材料費比率の目標値を達成することはできなかった。

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
医薬品値引率	実績	13.04%	16.64%	13.60%
全国平均	実績	12.07%	14.97%	14.70%

#### 【目標指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
給与費比率	年度計画目標	56.3%	55.4%	55.7%
	【中期計画目標】 54.2%	実績	56.9%	58.9%
				57.6%

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
経費比率	年度計画目標	15.7%	14.6%	14.4%
	【中期計画目標】 14.0%	実績	14.4%	15.8%
				15.6%

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
時間外労働時間数	年度計画目標	16時間/月	15時間/月	14時間/月
	【中期計画目標】 14時間/月	実績	16時間/月	13時間/月
				13時間/月



項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
材料費比率  【中期計画目標】 28.0%	年度計画 目標	27.9%	27.3%	27.5%
	実績	28.8%	27.2%	29.3%

#### 【関連指標】

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
後発医薬品数量シェア	実績	88.7%	89.8%	90.3%

## 第5 その他業務運営に関する重要事項

### 1 情報の提供

#### ア 特色ある診療内容の周知

当院の特色ある診療内容を広く周知するために、病院だより、広報誌「ともに」での情報発信に加え、動画による情報発信を行い、「内視鏡検査」、「産婦人科における産褥指導」の動画をホームページ上に掲載するとともに「吹田呼吸ケアを考える会（SRCT）」の動画を希望者へ配信した。

「脳神経内科」、「脳神経外科」、「小児外科」のパンフレットを作成し、医療連携を行う診療所等に引き続き設置し周知を図った。

#### イ 市民や患者に対する啓発・情報発信

内視鏡検査における検査や治療の流れを確認できる内容について、市民公開講座をオンラインで実施するとともに、動画をホームページ上に掲載し、市民や患者が受診する際に安心して利用できるよう周知を図った。

当院のホームページの解析結果について、院内ポータルサイトで、職員へフィードバックを行うとともに閲覧者が興味をもった内容が検索しやすいページ作成に努め、コンテンツの充実を図った。

#### ウ 市民公開講座等の積極的な開催

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面での開催が制限される中、ウェブ会議システムを活用して、「内視鏡検査」テーマとした市民公開講座、「糖尿病」をテーマとした出張講座を開催した。

#### エ 法人の経営状況の公表

法人の経営状況について市民の理解を得られるよう、財務諸表に加え、その用語説明や経営状況概要についてまとめた資料、過去の経営指標の推移などをホームページで公表している。

**【関連指標】**

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
病院だより発行回数	実績	4回	4回	3回

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
広報誌「ともに」発行回数	実績	2回	1回	1回

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
市民公開講座開催回数（再掲）	実績	1回	0回	1回

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
ホームページへのアクセス数	実績	1,680,798 件	1,488,283 件	1,563,660 件

**2 環境に配慮した病院運営**

ア 環境負荷の軽減・エネルギー消費量の抑制

毎月ビルエネルギー管理システム（BEMS）によって蓄積されたデータを基にエネルギーレポートを作成して消費量を分析し、消費量が大幅に増加した部署へ消費抑制の注意喚起を行った。また、クールヒートピットの熱効率を利用し、環境負荷を抑えている。

イ 環境配慮に対する職員意識の普及啓発

光熱水費の前年同月の比較表を院内ポータルサイトに掲載するとともに、節電・節水等の啓発ポスターを引き続き院内に掲示し、職員意識の啓発に努めた。

警備防災の夜間院内巡回時に電灯・エアコン等の消し忘れが確認された場合には、当該部署に対して注意喚起を行った。

**【関連指標】**

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
電気使用量	実績	5,657,852 Kwh	5,708,012 Kwh	5,690,335 Kwh

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
ガス使用量	実績	600,107 m <sup>3</sup>	721,722 m <sup>3</sup>	779,022 m <sup>3</sup>

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度
水道使用量	実績	107,292 m <sup>3</sup>	105,664 m <sup>3</sup>	107,233 m <sup>3</sup>

## 第6 予算、収支計画及び資金計画

### 1 予算（令和3年度）

（単位：百万円）

区分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)
収入			
営業収益	13,505	15,501	1,996
医業収益	12,914	12,497	▲417
運営費負担金収益	562	525	▲37
補助金等収益	30	2,478	2,448
その他営業収益	0	0	0
営業外収益	214	190	▲24
運営費負担金収益	83	83	0
その他営業外収益	131	107	▲24
臨時利益	0	37	37
資本収入	3,117	980	▲2,137
運営費負担金収益	785	786	1
長期借入金	0	0	0
その他資本収入	2,332	194	▲2,138
その他収入	0	0	0
計	16,836	16,707	▲129
支出			
営業費用	13,010	13,290	280
医業費用	12,107	12,393	286
給与費	6,578	6,657	79
材料費	3,885	4,014	129
経費	1,603	1,697	94
研究研修費	41	25	▲16
一般管理費	903	897	▲6
営業外費用	152	150	▲2
臨時損失	0	37	37
資本支出	1,938	1,719	▲219
建設改良費	170	351	181
償還金	1,768	1,368	▲400
その他資本支出	0	0	0
その他支出	0	0	0
計	15,100	15,195	95

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

【人件費】

期間中総額 7,019 百万円を支出した。なお、当該金額は、法人の役職員に係る報酬、基本給、諸手当、法定福利費及び退職手当の額に相当するものである。

2 収支計画（令和3年度）

（単位：百万円）

区分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)
収入の部	14,456	16,528	2,072
営業収益	14,250	16,269	2,019
医業収益	12,878	12,468	▲410
運営費負担金収益	1,222	1,185	▲37
補助金等収益	29	2,478	2,449
資産見返運営費負担金戻入	82	76	▲6
資産見返補助金等戻入	37	60	23
資産見返物品受贈額戻入	2	1	▲1
その他営業収益	0	0	0
営業外収益	206	209	3
運営費負担金収益	83	91	8
その他営業外収益	123	118	▲5
臨時利益	0	50	50
支出の部	14,671	14,963	292
営業費用	13,996	14,211	215
医業費用	12,897	13,141	244
給与費	6,673	6,709	36
材料費	3,539	3,659	120
経費	1,461	1,547	86
減価償却費	1,187	1,203	16
研究研修費	37	23	▲14
一般管理費	1,099	1,070	▲29
営業外費用	668	709	41
臨時損失	7	43	36
純損益	▲215	1,566	1,781

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

### 3 資金計画（令和3年度）

（単位：百万円）

区分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)
資金収入	17,119	17,042	▲77
業務活動による収入	13,719	16,186	2,467
診療業務による収入	12,914	12,448	▲466
運営費負担金による収入	645	1,353	708
補助金等収益	67	2,320	2,253
寄付金収益	0	1	1
その他の業務活動による収入	93	65	▲28
投資活動による収入	3,117	254	▲2,863
運営費負担金による収入	785	78	▲707
有形固定資産の売却による収入	0	13	13
補助金等収益	0	164	164
その他の投資活動による収入	2,332	0	▲2,332
財務活動による収入	0	0	0
長期借入金による収入	0	0	0
その他の財務活動による収入	0	0	0
前年度からの繰越金	283	602	319
資金支出	17,119	17,042	▲77
業務活動による支出	13,169	13,299	130
給与費支出	7,049	7,019	▲30
材料費支出	3,885	3,527	▲358
その他の業務活動による支出	2,235	2,754	519
投資活動による支出	170	254	84
有形固定資産の取得による支出	170	252	82
無形固定資産の取得による支出	0	1	1
その他の投資活動による支出	0	0	0
財務活動による支出	1,768	1,368	▲400
長期借入金の返済による支出	1,665	1,265	▲400
移行前地方債償還債務の償還による支出	103	102	▲1
その他の財務活動による支出	0	0	0
次年度への繰越金	2,012	2,122	110

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

## 第7 短期借入金の限度額

令和3年度決算において限度額1,200百万円のうち年度末短期借入金残高はなかった。

## 第8 出資等に係る不要財産の処分に関する計画

なし

## 第9 重要な財産を譲渡し、または担保に供する計画

事業者公募を実施したが、第一次審査を通過したすべての事業者から応募辞退の届出が提出され、公募が不成立となった。

## 第10 剰余金の使途

令和3年度決算において剰余金は発生しなかった。

## 第11 吹田市地方独立行政法人法施行細則で定める業務運営に関する事項

### 1 施設及び設備に関する計画（令和3年度）

（単位：百万円）

施設及び設備の内容	決算額	財源
医療機器等整備	253	自己資金等

令和3年度業務実績の法人自己評価一覧

添付資料

整理番号	頁	大項目	中項目	小項目	重点項目*	法人自己評価
		<b>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</b>				
			1	大阪府地域医療構想を踏まえて果たすべき役割	—	—
			2	市立病院として担うべき医療	—	—
				(1) 総論		3
				(2) 救急医療		—
				ア 二次救急医療機関としての円滑な救急応需体制の確保	○	2
				イ 初期救急医療における機能分担・連携		3
				(3) 小児医療・周産期医療	—	—
				ア 小児医療		3
				イ 周産期医療		3
				(4) 災害医療	—	—
				ア 市の災害医療センターとしての役割		3
				イ 市及び地域の医療機関との連携体制		4
				(5) がん医療	—	—
				ア 大阪府がん診療拠点病院としてのがん診療体制の整備		3
				イ がん予防医療の取組		3
				(6) リハビリテーション医療	—	—
				ア 回復期リハビリテーション病棟を活用した在宅復帰への支援		3
				イ 高齢化の増加に伴う疾患の増加への対応		3
			3	安心安全で患者満足度の高い医療の提供	—	—
				(1) 安心安全な医療の提供	—	—
				ア 医療の安全管理体制の確保		3
				イ 医療安全対策の徹底	○	3
				(2) チーム医療の充実	—	—
				ア チーム医療の仕組みを活用した質の高い診療・ケアの提供		3
				イ チーム医療の質の向上		3
				(3) コンプライアンスの徹底	—	—
				ア 内部統制体制の整備		3
				イ 職員の意識向上		3
				(4) 患者サービスの向上		
				ア 患者の視点に立ったサービスの提供		3
				イ 患者に寄り添ったサービスの提供		3
				ウ 院内ボランティア活動への支援		3
			4	本市の地域包括ケアシステムの構築に貢献する地域完結型医療の体制づくり	—	—
				(1) 地域の医療機関(かかりつけ医等)との機能分担・連携	—	—
				ア 紹介・逆紹介の徹底	○	3
				イ かかりつけ医定着に関する啓発		3
				(2) 在宅医療の充実に向けた支援	—	—
				ア 退院支援		3
				イ 在宅療養者の急変時の受入れ		3
				ウ 地域医療ネットワークの連携強化		3
			5	健都における総合病院としての役割	—	—
				(1) 国立循環器病研究センターとの機能分担・連携	—	—
				ア 診療における連携	○	4
				イ その他の連携	○	3
				ウ 連携体制の周知		3
				(2) 他の健都内事業者等との連携		3
				(3) 予防医療に関する取組	—	—
				ア 各種検(健)診の実施		3
				イ 人間ドックの実施		3
				ウ 予防接種の実施		3
				エ 疾病予防に関する講演会等の開催		3
			6	地域医療への貢献	—	—
				(1) 地域の医療従事者への支援	—	—
				ア 地域の診療所等への支援		3
				イ 地域の医療水準の向上		3
				(2) 福祉保健施策への協力・連携	—	—
				ア 障がい者(児)歯科診療の実施		3
				イ 小児科診療における協力・連携		3



	<b>第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項</b>		
	1 PDCAサイクルによる目標管理の徹底	—	—
	ア 重点方針の共有及び目標達成に向けた取組		3
	イ 目標管理の徹底		3
	ウ 経営改善に向けた取組	○	3
	2 働きやすい職場環境の整備	—	—
	(1)医療職の人材の確保・養成		
	ア 働きやすい職場環境づくり	○	3
	イ 医療従事者の質の向上と研修・指導体制の充実		3
	(2)人事給与制度	—	—
	ア 職員給与の設定・運用		3
	イ 人事評価制度の運用		3
	<b>第4 財務内容の改善に関する事項</b>		
	1 経営基盤の確立	○	3
	2 収益の確保と費用の節減	—	—
	(1)収益の確保	—	—
	ア 収益の確保	○	4
	イ 未収金の発生予防・早期回収		3
	(2)費用の節減	—	—
	ア 人件費・経費の適正化	○	3
	イ 材料費の適正化		3
	<b>第5 その他業務運営に関する重要事項</b>		
	1 情報の提供	—	—
	ア 特色ある診療内容の周知		3
	イ 市民や患者に対する啓発・情報発信		3
	ウ 市民公開講座等の積極的な開催		3
	エ 法人の経営状況の公表		3
	2 環境に配慮した病院運営	—	—
	ア 環境負荷の軽減・エネルギー消費量の抑制		3
	イ 環境配慮に対する職員意識の普及啓発		3

※重点項目は項目数2とする。

(参考)小項目評価基準(5段階評価)

評価	評価基準
5	年度計画を大幅に上回って実施している。
4	年度計画を上回って実施している。
3	年度計画を順調に実施している。
2	年度計画を十分に実施できていない。
1	年度計画を大幅に下回っている。